

復帰は果たせなかった

跡の回復!

すでにあらゆるニュースで報じられているから細かいことは言わないが、「ミスター・ジャイアンツ」長嶋茂雄氏が7月3日、東京ドームに姿を現した。

みるまではわからない。国民とは言わぬまでも、多くの野球ファンは、一抹の不安を抱えながらミスターの復帰を待ち望んでいたのである。

何しろ昨年3月4日に脳梗塞の一種、心原性脳塞栓症で倒れて以来、1年4カ月ぶりの「社会復帰」だ。

「快方に向かっている」という情報が流されては来ていたが、実際にその姿を見て

った!

氏は、右手はまだ使えないらしくポケットに突っ込んだままだったものの、左手を何度も上げて観客に挨拶。顔には歪みもなく満面の笑み。球場のオーロラビジョンやテレビ画面で見える限り、ちゃんと話もしている。不安を禁じえなかったファンを喜ばせる「奇跡の回復」ぶりを見せたのである。

「僕なんか長嶋さんがいなかったら野球をやっていたかたかもかもしれませんし、長嶋さんへの思いはものすごく強い。姿を見たときは思わずグッと来ましたよ」と話すのは野球評論家の江本孟紀氏。

「陰りの見えるプロ野球人氣を盛り上げるために長嶋さんを利用するというのは、たとえでもない話ですが、今回は本人が行きたい気持ちを持っていたようですから良かったと思います。まだ完全に回復されたわけ

はないのでそこは心配ですが、球場での長嶋さんの表情は、とても楽しそうだし嬉しそうに見えました。早くグラウンドに戻って、選手たちにも声を掛けてやってほしいですね」

長嶋氏と親交のある、スポーツキャスターの深澤弘氏も、

「倒れてから今までずっとお会いできませんでしたが、元氣な姿を拝見できて本当によかったです。最初は口元がこわばってなかなか言葉も出てこなかったようでしたが、次第に打ち解けて話し方も普通になっていったようです。長嶋さんは自分のイメージを壊さない姿になるまで出てこないと思っていたのですが、私

の目から見て回復具合が50%くらいの状態が出てきた。でも、これも長嶋さんがずいぶん勇氣と自信を持つたからこそだと感じましたし、逆に非常に安心しました」

と話す。専門家から見ても、経過は良好のようだ。「テレビで見ると、非常に元氣で顔色がいい。左の脳の神経が麻痺した後遺症で、右足を少し引いて歩いていましたが、杖も使わずに歩けるようになったのはリハビリの効果でしょう。特に回復期における、早期のリハビリがよかったのではないのでしょうか」と言うのは「くどうちあき脳神経外科クリニック」の工藤千秋院長。

昨年3月、脳梗塞で倒れて以来、1年4カ月ぶりに姿を現した長嶋茂雄氏(69)。本当に「復帰」できるのかという不安をよそに、ミスターは奇跡的な回復をアピールした。だが、脳梗塞といえ、田中角栄元首相も襲われた病。こちらの方は、以後、公の場では一度として立つことも話すこともなく、失意のうち世を去った。両者の差はどこにあったのか。



「ミスター」奇 「田中元首相」 とはここが違



特集

「しゃべる声は聞こえてき
ませんが、口は良く
動いていました。脳の中
も、ものをしゃべる部分と
手足を動かす部分は近い場

所にあり、麻痺が起こった
場所はこれらの部分からは
少し離れていたのでしょう。
これも長嶋さんの運の強さ
だと思えます」

すさまじいリハビリ

「長嶋さんがあれだけ見事
に復活したのは、やはり長
嶋さんご本人が一生懸命リ
ハビリに精を出したことが
第一の理由でしょう」

「実際、長嶋氏のリハビリ
は迅速に行われたという。
「入院2日目にはベッド上
で手足をマッサージしたり
動かしたりするリハビリを
始めたそうです。3週間後
にはリハビリ専門病院に移
り、それを家族が献身的に
支えたのです」

「今や長嶋さんは、医師が
一日中つきつきりで見なけ
ればならないような状態か
らはとつくに脱しています。
私も東京ドームのバルコニ
ー席から観戦させていただ
きました。これはあくま
でも招待を受けたからであ
って、長嶋さんの病状が心
配だったからではありません
ん。もちろん入院中は私も
最大限の努力をいたしまし
た。現在、そしてこれか
らの回復状況は、リハビリ
によるところが大きいので

「と云うのは、あるスポー
ツ紙記者。前出の深澤氏も、
「長嶋さんは歩くときに動
かない方の右足から歩き出
していましたが、これはリ
ハビリの鉄則。楽な左足を
最初に出してしまつと、麻
痺した右足は治らないので
す。あれを見ても、長嶋さ
んはきちんと医師の言うこ
とを聞いてリハビリに励ん
でいることがわかりました。
もれ伝わってくるところで
は、これまでのリハビリは

ナベツネ氏とも談笑

相当すさまじかったそうで、毎日4時間のリハビリで、ドクターに「それ以上やると他のところに支障が出る」と言われても、お構いなし

「最悪の措置」

にやっていたそうです」というのだから、医師の指導と本人の努力、家族の献身があいまっての回復ということのようなのだ。

さて、ミスターと同じく脳梗塞で倒れながら、その後、政治生命を失い、回復した姿を国民に見せることなく、9年後に亡くなったのが田中角栄元首相である。

する認識力、判断力はあるが、それについての表現力がないという状態。治療計画はきわめて順調に進み、リハビリも完璧でした」と言うのは、当時の状況を

田中元首相が倒れたのは84年2月27日。すでに総理を辞め、ロッキード裁判の被告となっていたが、閣内軍として強大な権力を振るっていた。ところがその3週間前の2月7日に、子飼

と知るベテラン記者。ところが予想もしないことが起きる。当時はまだ主婦だった長女の真紀子氏が、4月29日に田中元首相を自宅に連れ帰り、自宅療養することにしてしまったのだ。記者氏が続ける。

「派中派」の創政会を結成して反旗を翻す。怒り心頭に発した田中元首相は毎晩浴びるほどに酒を飲み、その結果、脳梗塞で倒れたのである。

「リハビリは高度な医療機器を使わなければなりませんから、発病後2カ月という大事な時期に自宅療養に切り替えたのはやはり問題でした。そもそも入院中から病室内では真紀子さんが

「田中氏は当初、東京通信病院に入院しますが、それほど重症ではありませんでした。相手の言うことに対

すべての指図を出し、毎日規則正しく行わなければならぬリハビリについても

口を挟み、計画が中断することもしばしば。自宅療養に切り替えた後も、病院はリハビリのために身体訓練士と言語訓練士を派遣していたのですが、真紀子さんは彼らを治療に参加させませんでした」

なぜ真紀子氏は、田中元首相を自宅に連れ帰ったのか。「その理由の第一は、角栄さんが辛いリハビリを嫌がったから。そしてもう一つは、病院にいるといろいろ

な人がやってきますから、自分で何もかも仕切らなければ気がすまないという彼女は我慢できなかったのでしょう。さらに、角栄さんの女性関係は複雑でしたから、遺産相続のことも頭にあつたのかもしれない」と

と解説するのは政治評論家の三宅久之氏。「帰宅後、リハビリは十分にできなかったでしょうから、この措置が、角栄さんが国政復帰できるか否かの分かれ道になったとも言えるでしょう。リハビリについて

は昨年亡くなった元秘書の早坂茂三さんがよく

霊芝ご愛飲の皆様へ、おトクなニュースです！

日本をはじめ、アメリカ・中国の州、国立大学でも研究用に採用された高品質の

飛騨霊芝が

1kg **30,000円**

よいものだからこそ長く愛飲してほしい、だからこの価格が実現しました。

1kg(10ヶ月分) **30,000円**
500g **17,000円** (各税込)

長期愛飲者にこそ、自信を持ってお勧めします。

お問い合わせ、資料請求もお気軽に

第一薬産株式会社

☎0120-32-0963
〒506-0003 岐阜県高山市本母町59

「心残りだ」と言っていました。たとえ鳩山一郎さんは昭和26年に脳卒中で倒れますが、リハビリできちんと言葉を話せるようになり、総理大臣になった。早坂さんはそういうことを知っていたがゆえに、あきらめ切れなかったんですよ」

中村記念病院脳卒中診療部長の中川原譲二氏はこう言う。「脳梗塞の治療は、リハビリに入るのが早ければ早いほどいいんです。もし運動機能が十分でないときに筋肉を使わないでベッドで寝かせたままにしてしまうと、廃用性障害といって筋肉が萎縮して使いものにならない

最悪の措置でした」

「日本が生んだ二人の力りスマは、こうして明暗を分けたのだ。」

3